

徳泉寺報

No.0019

発行
令和元年 5月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区
榴岡 3-10-3

(022) 297-4248

春の法要 勤修

四月十四日（日）春の法要を勤修いたしました。徳泉寺では春の法要を共同墓地及びペット墓地の年に一度の合同法要と位置付けておこなっております。ご縁のある方を中心に共同墓地・ペット墓地に関心をお持ちの方やお寺の行事に積極的にご参加くださる方など五十名ほどにお運びいただきました。

本堂にて参列者全員で『正信偈（しょうしんげ）』（親鸞聖人の書かれた偈文）をお勤めし、住職・前住職から「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」についてお話させていただきました。この有名な言葉を『いのち満開』と訳したお坊さんがいます。私たちの命は誰とも比べることなく尊く、そしてこの命を春咲く桜の花のように満開に咲かせて命いっぱい生きて欲しいと願ってくださいているのが阿弥陀仏です。この法要をご縁に阿弥陀仏に願われている我が身に気づき、いのちを満開に生きていきたいものです。

法話終了後には境内の共同墓地・ペット墓地の前でもお勤めをして手を合わせ、お茶を飲み、談笑してひとときを過ごしました。



ほうもり 坊守、吉崎に行く

福井県あわら市に本願寺第八代門主蓮如上人由来の寺院、吉崎別院があります。

蓮如上人は浄土真宗各派の中興の祖といわれ、現在の真宗の儀式やお勤めの形式はこの蓮如上人によって整えられたものです。

その蓮如上人が布教の拠点とした吉崎では毎年四月下旬、京都東本願寺より七日間かけて徒歩で蓮如上人の御影像の掛け軸を迎え、十日間法要を行い、また徒歩で京都まで送り届けるという「蓮如忌」と呼ばれる行事があります。この御影像が吉崎別院に到着する四月二十三日に合わせ、宮城県内の坊守 住職の配偶者研修の一環として参詣する機会をいただきました。

すっかり日が落ちた午後七時半過ぎ、参道で提灯を持ち御影像の御輿を待っている、高口の鐘楼堂から太鼓の音が鳴り響きました。御影像が町内に到着した合図です。ほどなく手提灯を持った先達の行列が現れ、階段を少しずつ上ります。そして、地元の消防団に担がれた御影像の到着。門から本堂に続く階段を一気に駆け上がり御影像を本堂へとお招きしました。

そのあとは全国各地から駆けつけた参詣者一同本堂で一緒に勤行しました。満堂の御堂に、「正信偈」とお念仏が響き、二百四十年以上前から続く真宗門徒の信仰心に触れ、古き同朋に思いを馳せる一夜となりました。



階段を一気に上る蓮如上人の御輿



参道で御影像を待つ参詣者